

第2回 第2期教育推進プラン・江東 計画策定委員会 会議録

令和2年8月28日（金）

江東区教育委員会

第2回 第2期教育推進プラン・江東 計画策定委員会 会議録

1 開会年月日：令和2年8月28日（金）午後2時00分

2 閉会年月日：令和2年8月28日（金）午後3時30分

3 開 会 場 所：庁舎7階72・73会議室

4 出 席 委 員：若林彰（委員長）、前島正明（副委員長）、杉田次助、岩田安正、
山崎積、吉川耕平、吉田正子、久保剛、小林慶、関口朗太、山本京子、
喜多好一、菅野哲郎、高橋由美子、本多健一朗（教育長）

5 出 席 職 員：武越教育委員会事務局次長、池田庶務課長、半田学校施設課長、
太田整備担当課長、大町学務課長、伊藤指導室長、堀越教育支援課長、
河野地域教育課長、栗原江東図書館長

6 議題：

議題1 意識調査の結果について

議題2 第2期教育推進プラン・江東の骨子について

議題3 第2期教育推進プラン・江東の掲載イメージについて

議題4 その他

7 審議概要

【議題1】 意識調査の結果について

池田庶務課長：第1回策定委員会後、6月下旬より、7月15日（水）を締め切りとして「江東、区の教育に関する意識調査」を実施いたしました。

集計結果が出ておりますのでご説明いたします。

資料1（江東区の教育に関する意識調査集計結果）

それでは、資料1「江東区の教育に関する意識調査集計結果」についてご説明いたします。

「1 目的」ですが、本調査は「第2期教育推進プラン・江東」策定の基礎調査として活用することを目的として実施したものであります。

「2 種類と対象等」ですが、2種類ございまして、一つは区立小学校2年、5年、区立中学校2年生の保護者2,000名を対象として、もう一つは18歳以上を無作為抽出した江東区民2,000名を対象として実施いたしました。

「5 回収結果」ですが、保護者を対象とした調査が、回収率 84.1%、区民を対象とした調査が回収率 32.5%でございました。

「8 集計結果【概要】の見方」につきまして、一番下の項目になりますが、図表等に記載のある「前回調査」は現プラン作成のために、平成 26 年 12 月に実施した調査を指します。

「9 集計結果【概要】」については、主なものを説明いたします。

「区の掲げる教育の理念にふさわしいもの」という設問に対する回答としては、「自ら学び、考え、行動する自立した人間の育成」が最上位で、前回調査と比べて大幅に増えております。

①-1「学力や体力の向上に向けた基準を定め、こどもたちに身に着けさせる取り組みについて」という設問に対しては「前回調査と比べて、基準（スタンダード）の効果を評価・理解する人の割合（「非常に効果的である」「効果的である」）が、前回の 49.3%から 57.5%に増加しております。

①-2「幼稚園などでの就学前教育について」は「こどもの人格形成に効果がある」と回答した方の割合が増加しました。

①-3「江東区がより充実していくべき教育に関する施策・取り組み」は「少人数指導・習熟度別による授業」が最上位でした。

さらに下段は前回調査との比較となりますが、前回調査との比較でも「少人数指導・習熟度別による授業」が大きく伸びています。

②-1「将来どんな大人になってもらいたいですか」という設問については「人を思いやる心を持っている」が最上位でした。

下段の前回調査との比較では「自己肯定感をもち、自分に自信を持っている人」の伸び幅が最大となりました。

②-2「お子さんが社会や他者を共感的に理解できる気持ちを身につけるために学校が特に取り組むべきもの」としては、「ボランティア体験」が最上位でしたが、前回調査との比較では「ボランティア体験」の回答率は下がっており、「自尊心を高める取り組み」が大きく伸びています。

③-1「学校で行っている体力向上に向けた取り組みで、もっと力を入れてほしいこと」は「日常的に運動に楽しめる機会」が最上位でした。

④-1「お子さんは、楽しく学校に通っていますか」という設問については、「とても楽しく通っている」「まあ楽しく通っている」と回答した方が9割を超えており、前回調査とほぼ同水準でした。

④-2「学校にあまり楽しそうに通っていない」「楽しそうに通っていない」理由としては「勉強や授業への関心」「友達との関係」の2つが大きな割合を占めておりました。

④-3「特別支援教育について」は「積極的に取り組むべきである」「ある程

度、取り組むべきである」と回答した方は9割を超えておりました。

④-4「外国にルーツを持つこどもの増加による、日本語指導などの支援体制の強化について」も「積極的に取り組むべきである」「ある程度、取り組むべきである」と回答した方が9割を超えておりました。

⑤-2「友達関係や学校のことで悩んだり、学校で『いじめ』や『暴力』を受けたりしたときの相談先」は「家族」が最上位で、これに「学校の担任教員」が続いており前回調査とほぼ同様の傾向でした。

⑥-1「学校がICT教育をすすめていく上で必要なこと」は保護者、区民ともに「ICT環境を構築するため、学校にICT機器を整備していくべきだ」との回答が最上位でした。

⑦-2「お子さんのスマートフォンの保有」については、小2で1割強、小5で3割弱、中2で8割強となりました。

⑦-3「お子さんの安全のために力を入れてほしいこと、重要だと思う安全対策」は保護者、区民ともに「インターネットの有害情報やSNSの危険性から守るため、情報教育に力を入れてほしい」、「防犯カメラの効果的な運用など、通学路の安全対策を充実してほしい」との回答が上位2つとなりましたが、黒の保護者と、斜線の区民では順位が異なっております。

⑧-1「家庭教育のイメージ」につきましては、保護者、区民ともに「こどもの基本的なしつけとして家庭教育は重要だ」との回答が最上位となりました。

⑨-1「学校の教員に対する印象」は全体としては「こどものことに熱心に取り組んでいる」が最上位ですが、小学2年生の保護者については「こどもに信頼されている」が最上位でした。

⑨-3「教員の働き方改革について」は、保護者の約6割、区民の約7割が勤務環境の改善など、教員の働き方改革が「必要である」と回答しました。

⑨-4「より充実すべき教員の働き方改革に関する取組」では、保護者、区民ともに「人的支援や効率化などによる事務負担の軽減」という回答が最上位でした。

「ICT教育のイメージ」は保護者、区民ともに「学校でICT機器に触れることにより、情報活用能力が育成できる」が最上位で、「学校がICT教育をすすめていく上で必要なこと」については、「ICT環境を構築するため、学校にICT機器を整備していくべきだ」との回答が最上位でした。

吉田委員 : がん教育については、調査には入っていなかったが、二人に一人はがんで亡くなるという状況の中で、プランのどの部分で取り扱うかはわからないですが、入れておくべきではないですか。

伊藤指導室長 : 学習指導要領の中で、生活習慣病への対策としてがんについて取り上げて

おり、保健体育の教科書に記載があります。教育にあたっては、東京都と連携し、外部講師等を入れながら対応していくことになります。

若林委員長 : プランの中でどのように取り扱うか、検討していただきたい。ICTについては、他区と較べた本区の進み具合はどのような状況ですか。

大町学務課長 : 本区の整備状況は、電子黒板を小学校の全クラスに配備済みで、来年度には中学校の全クラスに配備する予定です。タブレットは今後、国のGIGAスクール構想に基づき一人一台配布する予定です。

菅野委員 : 意識調査を踏まえると、今後も中学生という思春期に入っているこどもと教員との信頼関係の構築に取り組んでいく必要があると考えます。

喜多委員 : 意識調査の結果に、スタンダード強化講師の配置など少人数指導の効果が表れています。また、保護者が自己肯定感や自尊心を高めることを重視している結果となっており、他者を大切にするには自分を大切にする意識を育てることが重要と感じています。

高橋委員 : 非認知能力は幼児教育で付けていくもの。意識調査では幼児教育が人格形成に効果があると保護者に評価されており、今後もしっかりと進めていきたいと思えます。

小林委員 : 少人数指導の効果はかなりあったと思う一方、教員の事務負担の軽減が必要であるとも感じています。ICT化が進んでいるが、eライブラリを夏休みも活用するのかと想像していたら、紙ベースの宿題等でした。今後はICTをどのように活用していくことを考えていますか。

伊藤指導室長 : ICTの活用に向けたオンラインマガジンを発行しています。ICT化を踏まえた宿題の在り方も考えていく必要があると思えます。例えば宿題の丸付けをする必要がなくなるなどで、教員の事務負担の軽減も考えられます。

若林委員長 : スクールソーシャルワーカーの認知度が低いのですが、この要因を分析していますか。

伊藤指導室長 : スクールカウンセラーは年間に一万九千件も相談を受けており、認知度が高い一方、スクールソーシャルワーカーは学校から申請を受けて家庭に巡回しているため、認知度が低い状況です。今後、PRの仕方を考えていきたいと思えます。また、スクールロイヤーは昨年度に導入したもので、学校の課題解決を担っており、教員における認知度は高く、成果もあがっている状況です。

岩田委員 : 21頁の地域・家庭の連携について、家庭教育が重要だという意識がある反面、区民意識の低下、学校との連携について地域格差が広がってきています。教育現場の多様性が区の中でも広がってきていると思えますが、家庭教育と言いながら家庭によって考え方が大きく違います。この辺りを子

どもたちにどう教育を提供していくのか、区ではどのように考えていますか。

伊藤指導室長：家庭よっての認識の違いについてのご質問ととらえますが、コロナウイルス感染症による学校休業に伴い、家庭の中で教育を行う必要性が生じており、家庭も学校も連携が重要と互いに気づいたところがあります。新しい教育は家庭と学校が一緒になって環境を整えていく必要があります。

地域教育課長：地域との連携にあたってはコミュニティスクールの導入を考えており、その器づくりが重要と考えています。まずは環境が整っている地域から一体となった取組を進めていきたいと思ひます。

吉川委員：小学5年生の4割ほどが学習塾に通っている。保護者が塾に何を求めているのか分析しているか。また、ICT機器の充実を保護者が求めていることがわかるが、どのように活用していくのかが気になる。

伊藤指導室長：塾に通わせることは家庭によつて、そのねらいは様々と考えています。ICTは、クラウドの活用が必須でして、例えば、電子教科書の活用を進めて、端末同士をつなげ、意見交換を行うような活用が想定されます。

吉川委員：授業がわかりやすくなるようなICTの使い方を検討してほしい。

吉田委員：「こうとうの教育」は、実にわかりやすい内容である。どのように配布を行っているのか。

池田庶務課長：年2回発行で、江東区報にあわせて配布している。区の行政機関にも配置している。

吉田委員：実にいい内容である。教育に関する広報の仕方を工夫してほしい。

【議題2】 第2期教育推進プラン・江東の骨子について

池田庶務課長：新たな骨子の作成にあたりましては、「新学習指導要領や国や都の教育振興基本計画で新たに記載されているキーワード、策定委員会や検討部会、議題1でご説明した教育に関する意識調査などを参考に、たたき台を作成いたしました。

内容説明の前に、参考1といたしまして、現行プランの骨子を配布させていただきます。

現行プランではI～IVの「施策の柱」の下に、①～⑬の重要施策を配置し、さらにその下に(1)～(23)の取組み指針、①～④⑤の取組の重点で構成しておりました。

記載内容につきましては、毎年の点検評価を踏まえ、見直しを重ね、精査してまいりましたが、各施策の体系を理解するためには、じっくり読みこんでいただく必要がある点で、「誰にでも気軽にご覧いただく」という点が課題

であったと認識しております。

それでは、資料2「第2期教育推進プラン・江東(策定委員会用たたき台)」のご説明をいたします。

今回作成した「たたき台」は、左側で「未来を担うこどもを育むテーマ」として、1 学び・育ち、2 自分らしさ、3 環境、4 つながり、という4つを設定し、これら視覚的にとらえることができるよう、図式化、色分けをいたしました。

さらに、各テーマの大まかなイメージを把握していただけるよう、テーマ1には「みんなに」、テーマ2には「ひとりひとりに」、テーマ3・4には「ささえる」というキーワードを記載しました。

各テーマには、2つから3つの施策で構成し、例えばテーマ1「学び・育ち」には①確かな学び、②豊かな心、③健やかな体という3つを設定し、全体では10の施策を設定しております。

この①～⑩の施策に対しては、資料右側にまいりますが、各施策2つから3つの、呼称は暫定ですが、「取組指針」で構成し、全体としては22の取組指針を設定しております。

また、各取組指針の内容については、なるべく文章を避け、なるべく短いフレーズで記載することを心掛けました。

記載内容につきましては、前回の策定委員会でのご意見や議題1でご説明した「教育に関する意識調査結果」を十分に踏まえました。

主なものをご紹介しますと、策定委員会の中でご意見として挙がっていた「豊かな人間性、思いやりの心の教育」といったキーワードにつきましては、左側「②豊かな心」、右側「②(4)自他を大切にす優しい心の育成」で表現し、さらにその中で「自己肯定感」といったキーワードも記載することとしました。

続いて、こちらでも多数のご意見を頂きましたが、「就学前教育」につきましては、右側「①(3)連続した学びの保障」において「就学前教育の充実」と記載することといたしました。

また、教育に関する意識調査では、「少人数指導や習熟度別の授業を充実すべき」との意見が多くありましたが、右側「④(8)一人一人を大切にす教育」において、「一人一人に応じた教育」と表記することといたしました。さらに、そのほか、委員の皆様から多くのご意見をいただくとともに、意識調査でも関心の高かったICTに関しましては、最下段で「教育のICT化で4つのテーマをつなぐ」として、ICTに関する取り組みの方向性として「情報活用能力の向上」「個を大切にす教育の実現」「ICT環境の整備」「学校運営の効率化」の4つを示しております。

資料2の説明は以上となりますが、この骨子のたたき台については、今後事務局でさらに精査を重ねるとともに、本日いただきましたご意見も踏まえ、肉付け作業を進めまして、次回の検討委員会では素案をお示ししたいと考えております。

- 山本委員 : コロナウイルス感染症による自粛で、家庭の中で子どもと一緒に教育を行ってきました。このような状況では、地域や家庭によって差が出るのではないかと心配しています。また、ICT化で教員の負担は軽減されるのでしょうか。
- 伊藤指導室長 : 教員の負担軽減については、例えば、出退勤や旅費の計算を勤怠管理システムの運用で、また、研修については、TV会議を活用することにより、業務の効率化が図れると考えています。また、家庭とのつながりについては、家庭教育学級や各種講座を開催することにより、家庭での課題の解決に向けて、子どもへのアプローチの仕方などを学んでいただく機会を充実させていきたい。
- 久保委員 : 現計画と較べて、わかりやすい内容となっている。ただし、学校運営の効率化の部分はわかりにくいので、もう少し柔らかい言葉を使ってほしい。また、「環境教育」をどこかに盛り込んでほしい。それと、意識調査の回収率は、保護者と較べて区民は低いことについては。
- 庶務課長 : 保護者調査の回収率の高さは、学校配布の効果が大きいと考えています。「環境教育」はプランに盛り込むことを検討したいと思います。
- 菅野委員 : SDGsは環境と経済のつながりを目指すものですので、「環境教育」は欠かせない取組として盛り込んでほしいです。
- 吉田委員 : 図書館は区民全体の財産であり、国もリカレント教育に力を入れています。図書館の充実は大人の成長にもつながります。いろんな世代の人たちが同じ本を読んでいたりして、互いに発展し合う場になる。ぜひ大切にしてほしいです。
- 栗原図書館長 : 図書館は生涯学習において重要な施設であり、子どもについては読書活動推進プランの策定準備を進めています。学校との連携とともに、大人になってからも情報活用拠点として使いたいという声があります。今後、図書館のビジョンの検討を進めていくところです。
- 山崎委員 : 今年度からスタートした地域学校協働本部の状況を教えてほしい。
- 河野地域教育課長 : コロナウイルス感染症による影響で、地域の活動は限定的なものとなっています。また、ウイークエンドスクールなどの取組も、担い手の有無によって、地域で温度差が見られるところです。なお、八名川小学校ではコミュニティスクールをモデル的に導入しました。
- 関口委員 : SDGsの視点を盛り込んでほしいです。また、幼保小中など、学びの連続

性、交流などを充実させてほしいと思います。

喜多委員 : 骨子はわかりやすく、読みやすです。「こどもたちの未来」という欄に目指すこども像を入れてはどうでしょうか。また、教員の指導力の向上だけでなく、資質の向上を視点として入れてほしいと思います。

若林委員長 : 大学との連携の状況を教えていただきたい。また、企業との連携は重要ですが、何か取組の構想はありますか。

伊藤指導室長 : 教員の指導力の向上にあたり、大学の学生に参加してもらい、話し合いをするような取組を実施しています。また、企業との連携については、プログラミング教育などを企業と協力しながら実施していきたいと思っています。

【議題 3】 第 2 期教育推進プラン・江東の掲載イメージについて

池田庶務課長 : 現行の教育推進プラン・江東（後期）を確認したうえで、第 2 期教育推進プラン・江東の掲載イメージ（案）をご確認いただきます。

参考 1 「(抜粋 重要施策 1) 教育推進プラン・江東（後期）」のご説明をいたします。

資料最初の 25 ページは、施策の柱 I の扉ページとなっております。

1 枚おめくりいただくと、26 ページより重要施策 1 「確かな学力の向上」についての記載がはじまりまして、29 ページまで、4 ページにわたっての記載となっております。途中 27、28 ページでは意識調査結果の分析にも一定のスペースを割いております。

また、何点かグラフも掲載してはおりますが、全体的には文章量が多く、「読ませる」印象が強く、興味を持たれた方にはお読みいただけているとは思いますが、誰にでも気軽に手に取っていただきにくい側面がありました。

資料 3 の「第 2 期教育推進プラン・江東 掲載イメージ」のご説明をさせていただきます。

現時点での記載内容はすべてサンプルとなりますので、あくまでも完成のイメージとして共有いただければと思います。

まず掲載レイアウトですが、第 2 期教育推進プラン・江東では、従来の縦型ではなく、横型の配置としております。

行政の発行する冊子として、横型はやや珍しい感もありますが、横型にすることで、冊子のみならず、PC の画面でも見やすく、視覚的に施策イメージを伝えることができるのではないかと考えております。

1 枚おめくりいただきまして、重要施策ごとに基本的な考え方を 1 ページで記載します。

左上には、「小学校」「中学校」「幼稚園」等のアイコンを配置し、何に関係がある施策なのか、視覚的に確認できるように致します。

文章中、赤字となっている部分は、重要施策に紐づく「取組指針」となって

おり、次ページの①②とリンクする形になっております。青字となっているのは重要施策に関連するキーワードとなっており、このページの例では、右下に「学びに向かう力」の解説を記載しております。

各ページの右側には、写真や図表を掲載し、重要施策の取組内容がイメージできる構成といたします。

また、必要に応じてページ下部には、関連サイトの URL や QR コードを配置し、関連資料などを即時に参照できるようにいたします。

重要施策毎に 2 ページ目では、意識調査結果から特に重要だと思われる課題を抜粋して記載するとともに、重要施策に紐づく「取組指針」や取組指針に紐づく「取組の重点」を記載いたします。

また、必要に応じて図表やイラストなどを用い、手に取って見たくなる構成を目指します。なお、今回用意はありませんが、意識調査結果の分析については、重要施策のページには多くを掲載せず、資料編として冊子の後半に掲載してはどうかと考えております。

若林委員長：プランはWEBに掲載する前提で作成されているということでしょうか。

池田庶務課長：お見込みの通りです。

久保委員：写真は、1 ページに二、三枚あててもいいように思います。

菅野委員：意識調査の結果を読みやすいように工夫してほしいです。

高橋委員：言葉の使い方を骨子とリンクし、整合がとれたものにしてほしいと思います。

喜多委員：ページの右端に色分けしたインデックスを付けるとわかりやすくなると思います。

【議題 4】 その他

池田庶務課長：「第 2 期教育推進プラン・江東策定スケジュール（予定）」をご覧ください。前回の検討策定委員会でお示ししたスケジュールにつきましては、第 2 回検討部会、策定委員会までの日程が決まっておりましたが、この間に第 4 回までの日程及びパブコメの実施時期が決定しましたので、改めて周知させていただきます。

若林委員長：それでは、以上をもちまして、第 2 回第 2 期教育推進プラン・江東 計画策定委員会を閉会いたします。

以上